ジュゴン　Vol.91

ちゃんぷるニュース

SDCC Save the Dugong Campaign Center　2017. 3. 21

CONTENTS

●2/3 情勢・自然遺産と北部訓練場
●　外来種対策シンポ
●　防衛局は『承認の留意事項』を守れ！
●4/5 海の生き物を守るシンポ報告
●　各地の活動報告
●6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
●　コラム「対局見失ってはならない」

２月 26 日地域の方々と「いのちの森　高江」の大田上映会を開催しました。昨年 12 月「高江～森が泣いている」、10 月「標的の村」、7月「戦場ぬ止み」と継続的に、沖縄の現状に向き合って訴えてきました。沖縄の民意や県知事の意向を無視し、やんばるの森や海の破壊を強行する政府の強引さを憂う多くの方に来ていただきました。署名を送付してくださる方や連続して上映会に参加してくださる方など地域のつながりを実感しました。そんな中、先日沖縄を訪問した際、名護市公設市場のとあるショップの入口に２月 26 日の大田上映会のチラシが貼ってありました。東京の上映会であり既に日付が過ぎたものでしたが、人と人のつながりをうれしく思いました。

たくさんの人とつながって

さて、その沖縄訪問の際に、初めて伊江島に行きました。目的はわびあいの里の学習会に参加することでした。そしてぜひ一度行きたかった「ヌチドゥタカラの家」の反戦平和資料館を訪問しました。阿波根昌鴻さんの闘いの歴史を学ぶことができました。戦後の土地闘争、乞食行進など非暴力で闘う姿勢、「すべて剣をとる者は剣で亡ぶ（聖書）、基地をもつ国は基地で亡び、核をもつ国は核で亡ぶ」という阿波根さんの信念が今の沖縄の闘いに根付いていることを感じました。

今沖縄の北部地域は、軍事要塞化が進んでいて、辺野古・高江・伊江島のトライアングルで土地と自然が破壊されています。

辺野古・大浦湾の海には、288 個のコンクリートブロックが投入され、高江の森にはヘリパッド建設が強行されています。そしてこの闘いのリーダーである山城博治さん（沖縄平和運動センター議長）が逮捕され、不当にも４ヶ月以上も拘留されています。阿波根さんの徹底した非暴力思想と一歩も引かない強い意志、平和思想を再確認し、沖縄の平和、やんばるの森と海を守るために多くの人とつながっていきましょう！

（首都圏　三村昭彦）

[WEB] http://www.sdcc.jp/　[EMAIL] info@sdcc.jp

座り込みが続く辺野古のゲート前（６面）

伊江島「ヌチドゥタカラの家」（本面、６面）

情勢 「世界自然遺産と米軍北部訓練場問題」

日本政府は２月１日に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」を 2018 年世界自然遺産に推薦しました。2000年10月、第2回国際自然保護連合（IUCN）世界自然保護会議（ヨルダン・アンマン）で採択された日米両政府への勧告「沖縄島のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全」にある「やんばるの亜熱帯林の生物多様性と絶滅のおそれある動植物の種についての詳細な調査を行い、同地域の保全計画を立案し、さらに、世界自然遺産への登録を検討すること」が実行されたことは喜ばしいことです。この勧告が採択されて１６年余、SDCC など環境団体は日本政府に辺野古大浦湾のジュゴンの生息地や高江のノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全と行動計画策定を求めてきました。また、昨年９月の第６回 IUCN 世界自然保護会議（ハワイ）では、決議「島しょ生態系への外来種の侵入経路管理の強化」を採択し、辺野古新基地建設のための埋立て土砂の大量搬入に警鐘を鳴らしました。

政府の世界自然遺産登録推薦書には大きな問題があります。米軍北部訓練場が地図の上にも、環境に影響を与える課題としても一切記載されていません。したがって、北部訓練場に近接する自然遺産対象地域との間にバッファゾーン（緩衝地帯）は設定されていません。自然遺産登録の評価基準の「自然遺産の特質のすべてが無傷で包含されているか」の「完全性」は考慮されていません。オスプレイの飛行（騒音、排気熱、低周波）や軍事訓練は絶滅危惧種のノグチゲラ、ヤンバルクイナなどに影響を与えていることは言うまでもありません。６か所のオスプレイパッドの建設で２万４千本の樹木が伐採されました。やんばるの森の生態系に多大な影響を与えています。外来種対策はマングースにとどまり、IUCN 決議が求めている外来種の侵入経路の管理強化の対策を検討していません。やんばるの森の豊かな生物多様性の保全を考えてはいません。

今年の夏には、ユネスコ（国連教育科学文化機関）からの委託事業として IUCN が世界自然遺産の現地調査に来日します。私たちはIUCN本部に対して「世界自然保護会議で採択された決議をふまえて調査すること求める」意見書を３月にも提出します。また、４月の政府交渉で、IUCN の現地調査時に沖縄県や関係団体との意見交換の場を設定することを求めます。昨年12月県議会で、沖縄県は「IUCNによる検証作業がおこなわれる場合は可能な限り協力する」と答弁しています。「沖縄ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう」を国民的な運動にするために、２月から進めている新署名にご協力をお願いします。

「沖縄防衛局は『承認の留意事項』を守れ！」

沖縄防衛局は埋め立て事業着手の準備として、汚濁防止膜設置のために228個のトンブロックを投入しています。底生動物や潮流などへの影響を考えず、また沖縄県の指示すら聞かずに埋め立て工事を急いでいます。地元紙は「５月に護岸工事」、「（滑走路建設のための）地盤改良のために海底ボーリング調査を 13 本追加する」、「３月末に切れる岩礁破砕許可も、沖縄防衛局は延長申請をしない」、「実施設計の事前協議は終わっている」と報道しています。「埋め立て承認の留意事項」を無視する沖縄防衛局・防衛省を許すことはできません。

また、辺野古・高江の闘うリーダー、山城博治さんの長期拘束も許せません。沖縄現地と本土をむすぶ大衆的な闘いが必要です。オール沖縄共同代表の呉屋守将さん（金秀グループ会長）は沖縄タイムスのインタビュー（３月６日）で「（沖縄県は）承認撤回、早く決断を」「法廷闘争の行方よりも、撤回を求める県民の声に応えるべき」「知事は辺野古の現場に立つこと」と翁長知事を激励しています。沖縄選出国会議員や県議らでつくる「止めよう辺野古新基地建設！議員団」は３月１１日から毎週土曜日のキャンプシュワブ・ゲート前座り込みを再開しました。本土各地では３月、４月とさまざまな闘いが準備されています。６月１０日（土）国会包囲行動にむけて辺野古埋め立て阻止の世論を盛り上げましょう。

（事務局　蜷川義章）

「外来種問題を考えるシンポジウム～島しょ生態系を守るために」に参加して

２月 25 日中央大学で標題のシンポジウムが持たれました（日本自然保護協会、WWF-J 共催）。

外来種対策の一人者である五箇公一（国立環境研究所）さんが基調講演「なぜ外来生物は増えるのか？その防除の成否の鍵は何か？」で、外来生物問題を「異なった地域の生態系に、人によって持ち込まれた種が、その地域の生物多様性を破壊する問題」と規定。「侵入初期の早期防除こそが要」と強調、成功例としてアルゼンチンアリの防除を取り上げました。五箇さんは沖縄防衛局の環境監視等委員でもあり、辺野古埋め立て土砂の外来種対策の助言者としても注目されています。

続いて、安倍真理子（日本自然保護協会）さんは「IUCN 世界自然保護会議での勧告について」報告。大量の埋め立て土砂を辺野古大浦湾に移動させることは、生物学的侵略の危険性があるとの認識が必要。世界自然遺産登録とあわせて外来生物対策の強化をと訴えました。つづいて、佐々木健志さん（琉球大学博物館）は「沖縄県の外来種については、農業外来種とフイリマングースを除いては有効な対策はほとんど実施されていない」と指摘。米軍基地も含めた外来種対策が重要で、国、県、市町村の連携が課題になっていると報告しました。

最後に、パネルディスカッションでは、外来種対策への市民参加、そのために無関心層への働きかけが必要。オーストラリアなどでは外来種対策に年間 300 億円をかけている。日本ではマングース対策に３億円、貧弱な体制しかできていないなどの議論になりました。

（事務局　蜷川義章）

速報！ **3/18 山城博治さんが勾留されていた那覇拘置支所から保釈されました！まだもう一人の拘留が続いています。引き続きご支援お願いします。**

那覇地検、地裁宛てに「山城さん釈放を」はがきを送ろう

山城博治さんらの長期拘束が続いています。これに対して那覇地裁前では、毎日抗議集会が開かれ、国際的人権団体「アムネスティ・インターナショナル」も長期勾留は非人道的だとする声明を出しています。逮捕から約５カ月もの間、弁護士以外の接見が禁じられていた山城さんですが、このほどやっと家族との接見ができるようになりました。皆さんの声で山城さんたちの釈放を勝ち取りましょう。

「山城博治さんたちの早期釈放を求める会」は、那覇地方検察庁と那覇地方裁判所に宛てたポストカードを作成されました。

カードには、ヤンバルクイナや海の写真と（1）山城さんたちの釈放または勾留執行停止を求める（2）山城さんたちに対する接見禁止措置の解除を求めるーと書かれています。メッセージも書き込めます。カードにメッセージを書き込み、切手を貼って送ります。 カードは名護市辺野古のゲート前などで販売される他、ファクス注文できます（同会へのカンパとして4枚1セット300円）。ファクスは住所、名前、電話番号を記し、「山城博治さんたちの早期釈放を求める会」098（974）7349まで。
また普通のはがきにメッセージを書いて下記宛先に送って意思表示することも出来ます。

＊那覇地方裁判所
〒900-0022 沖縄県那覇市樋川１－１４－１　所長：阿部正幸
＊那覇地方検察庁
〒900-0022 沖縄県那覇市樋川１－１５－１５　検事正：林秀行

沖　縄　伊江島真謝の空にシュプレヒコールが響く

―わびあいの里学習会に参加して―

伊江島米軍演習場に隣接した真謝地区の青い空に「米軍基地機能の強化・拡張工事反対、オスプレイ撤去」声が響いた。

3月4日・5日に持たれた「第１５回ゆずり合い、助け合い、学び合う会」の前段の集会とデモ。

ジュゴン保護キャンペーンセンターの仲間と横断幕を持ち団結道場までを歩いた。参加した１２０名の中には、辺野古、高江の顔ぶれも多く見られ、北部のトライアングルで進む軍事要塞化に反対する連帯の形が嬉しく思えた。

学習会の基調講演は沖縄国際大学名誉教授の石原昌家先生で、〝集団自決、「集団自決」、強制集団死のちがいは何か〟ーゼロ歳児が戦闘参加者にされている援護法の仕組みー。（注）そして基調講演を受けての対談、金城実さんと石原先生「捏造された『真実』と靖国神社合祀を語る」。

沖縄に住み、伊江島、辺野古、高江に立っていると、音をたてて戦争への道をひた走っていることを痛感している。一人ひとりが「戦争は人災である」ことを、戦争に向けられている身近にあるすべての現象を見極め、自らの思考で平和を創っていかなければならない。

学習と理解こそ平和の力であるという阿波根昌鴻さんの魂は、たくさんの人たちの理解と信頼を得て没後１５年の今も消えることなく生き続いている。

今こそ、それぞれの役割を持ち平和を愛する人として責任ある生き方をしていくことが大切であるとする阿波根さんの『五本の指』の精神が大切であることを改めて確認した。　（沖縄　高垣縁）

（注）石原昌家著『援護法で知る沖縄戦認識～捏造された「真実」と靖国合祀』を参照。

「辺野古の海埋め立て工事再開を許さない！オスプレイの配備をやめろ！安倍政権は辺野古新基地建設を断念しろ！2･26新宿デモ」

２月２６日、辺野古に基地を作らせない実行委員会主催の恒例のデモがありました。

この日は、寿の宮城義光さんが沖縄魂を熱唱！指笛が鳴り、やんやの喝采で一気に集会の熱気が盛り上がり、次々と各団体からのカ強い報告が続きました。

海上行動に参加した人は、「大浦湾には大型堀削船ポセイドンが配置されて、自然破壊が更に進む。また、ブロックを投入して、もう工事が始まったからと、諦めさせようとしている。現地では、朝早くからの座り込みが、作業員の現場入りを困難にし、工事を遅らせている。諦めないことが勝利へ繋がる」と、報告。

東京ＭＸテレビへの抗議活動を続ける仲間からの報告や、警視庁機動隊沖縄派遣住民訴訟の報告、宮古島に自衛隊基地いらないと報告する女性などが発言しました。沖縄からの電話メッセージは平和市民連絡会の真喜志好一さんでした。

集会後のデモでは、大成建設の前で「大成建設は自然を守れ、基地を作るな、サンゴを壊すな」と、大きくシュプレルコールを繰り返しました。

首都圏では、連日のように辺野古や高江、大成建設、東京ＭＸテレビ、山城さんらを釈放せよと、集会やデモ、上映活動や写真展などが続いています。諦めないで、声を挙げ続けましょう。　（首都圏　宮城韶子）

『いのちの森 高江』上映会

２月25日、エル大阪で『いのちの森 高江』の上映会&お話し会をしました。

やんばる高江は文字通り“いのちの森”です。「1本の木にも成長段階により様々な生きものが棲みつく」「戦争のために、この森を壊すことは絶対に許せない」というチョウ類研究者のアキノ隊員の言葉が心に残ります。

わたしたちに何が出来るのだろう。上映後、参加者でゆんたくしました。修学旅行で中学生を辺野古に引率した方は、「若い時代にジュゴンや沖縄のことを学べば、将来平和をつくることにつながっていく」。また「こんなにがんばってもヘリパッドが作られてしまい無力感も感じるが、選挙で民意を示していくことが重要」「真実を知らせていけば、基地に反対する声が大きくなる」などの意見も。「辺野古・高江でずっと座り込みが続いていることが大きな希望だ」とあきらめないことが大切だとみんなで確認しました。

各地で上映が続いています。まだの方は、ぜひご覧になってください。　（関西　山根富貴子）

大　阪

２月２６日（日）、大田区民センターで「いのちの森 高江」の上映会が、主催：ＺＥＮＫＯ（平和と民主主義をめざす全国交歓会）南部、後援：ジュゴン保護キャンペーンセンターで開催されました。

１１時、１３時、１５時の3回上映し、参加者は合計７７人でした。上映時間６５分に、森の自然が一瞬に壊され、オスプレイにおびえ、怒り、闘う高江の住民の苦悩が記録されており、上映後、「沖縄だけの問題でない」などの発言がありました。　（首都圏　矢敷克子）

東　京

2・18海の生き物を守るシンポジウム2017参加報告

京　都

シンポジウムと総会に参加し、ブースを出させて頂きました。「失われる沿岸の自然と公共事業～辺野古・諫早・泡瀬・三陸・湘南～」と題しての専門家・研究者からの報告は学びの多いものでした。最初に日本の海岸はどんどん壊されているが、今、その「環境破壊」が忘れられていないか、そして、残っている貴重な自然が危機にさらされていると問題提起がありました。

海の生き物を守る会代表の向井宏さんが「沿岸の危機を守るための提言」として、自然に対する尊崇・保全意識がほとんどみられず、経済優先・土木優先が大きな問題。失われていくものにどれだけの価値があるのか知る必要がある。科学研究者は、意識して自然を守ることの重要性を指摘していく必要があると話されました。どの講演からも「根本」「本質」が問われていると実感し、辺野古の新基地建設を止め、生物多様性の宝庫・大浦湾を守ることの重要性をさらに深く実感しました。様々な分野の人たちとつながって、取り組んでいきたいと思います。

（関西　池側恵美子）

会場は京都の梅小路公園「緑の館」
100名ほどの参加がありました。

報　告

じゅごんの里ツアー下見に行ってきました！

～春の沖縄旅の報告～

3/2～6の４泊５日で那覇～普天間～伊江島～辺野古と巡り、多くの体験・学びと共にとても楽しい旅となりました。見て聴いて感じたことを一部ですが報告します。

◆那覇地方裁判所前へ

山城博治さんらの長期不当拘留への救援・抗議アクションに参加し、プラカードを持ちシュプレヒコール。県外からの参加ということでマイクアピールをさせて頂きました。

目前に裁判所を見て、この国の権力は人権をないがしろにし、法治国家たりえないと実感、恐ろしい・・・。

帰り際に車に乗り込む私たちにありがとうと頭を下げられた年配の方、来るだけでほんの少しでも力になれたのかなと嬉しかった。キャンプシュワブゲート前で購入した救援ハガキを早速送ろうと思う。（救援ハガキ詳細は３面を）

◆普天間居場所づくりプロジェクトの「リベラルツーリズム・命どぅ宝ツアー」へ

ツアーでお世話になっている赤嶺さんにガイドして頂く。フェンス越しに間近にオスプレイを見た。フェンスと隣り合わせの赤嶺宅屋上から普天間基地を見た。

基地のすぐそばの普天間第二小学校に行く。子どもたちはにこにこと手を振ってくれるが…。基地があるという現実。

小学校は騒音対策がされ窓は閉め切られるのでエアコンが必要。宜野湾市の小学校の１年間の空調費用は2,000万円、防衛省は予算がないから削減すると言うが、米軍には思いやり予算を１日５億円も支払っている。子どもたちを守らないこの国に未来はあるのだろうか。普天間基地は無条件で即時閉鎖・撤去でしょう。

三角食堂で食べたゴーヤチャンプル＆沖縄そばは美味しかったです。

（普天間居場所づくりプジョジェクトの詳細は８面を）

ツアーガイドカー

◆伊江島へ

本部港からフェリーに乗って伊江島へ。沖縄のガンジーと称された阿波根昌鴻さんの平和運動を引き継ぐ「わびあいの里」の学習会に参加。

青空のもと畑が広がり、牛の鳴き声が聞こえるのどかな島で、全国から集まった参加者とオスプレイ配備撤回のデモをした。オスプレイの訓練の影響で牛の早産、流産が増えたと聞く。

伊江島の基地機能強化は辺野古、高江と一体化している。政府の言う「負担軽減」は大嘘だとわかる。わびあいの里の資料館へぜひ一度訪れてほしい、「真理は一つ」平和を深く考えさせられます。

◆辺野古へ

海上での作業が再開され、コンクリートブロックが投下されている。海に浮かぶ作業船に憤り、悔しさ、かなしさでいっぱいになる。

テント村では座り込み続けているなじみの人たちとの再会にほっとし力をもらう。この現実を多くの人に知ってほしい、考えてほしい、これでいいのかと。

沖縄に居るとこの国が危うい方へ進んでいるのがはっきりとわかる。権力に抗う最前線です。できることをやり続け、力を蓄えて、じゅごんの里ツアー（6/30～7/2）で、また辺野古へ行きます！　（関西　池側恵美子）

ゲート前でアキノ隊員に出会う

辺野古・ノーベースギャラリー

大局見失ってはならない ～こらむ・コラム～

今、ヤマトの邪風が、琉球に吹き荒れている。開国以来「国家機密」を護るために使命を帯びたゾンビのような集団が、辺野古唯一を宣い、不都合な真実を隠そうとしている。そして、とうとう沖縄県に宣戦し、牙を剥いてきた。

しかし我々は、再び不幸な時代に生きることを望まない。翁長雄志県知事を誕生させたときの、気を入れ直したい。翁長知事が宣言した「イデオロギーより、アイデンティティ」を、しっかり受け止め、結束したい。保革対立を煽る空理空論でなく、ウチナーンチュのチムググルである「平和主義」のアイデンティティを、守り抜くということだ。

これから行なわれる各地の伝統行事ウンジャミ(海神祭)やシヌグは、その結束の場になる。そして必ずや、軍事に依存しないウチナーを取り戻し、琉球国の崇高な理想に生きることを海神に祈り、願おう。それは不可能ではなく、我々に残された道は、それしかないからだ。

なぜなら、世界はトランプ騒動に見るまでもなく、欲望を正当化した資本主義的民主主義は、まさに崩壊の危機にあるからだ。また、その「欠陥民主主義」を利用し、利益を掠めてきた米国の軍産複合体の戦争正義も、その不正義により、たち行かなくなっているからだ。

そのような米国の庇護の下、戦前回帰を目指してきた安倍政治も、化けの皮が剥げ落ちてきた。だがしかし、ゾンビのような彼の国体護持思想は、国民を一億玉砕の道へ誘うことを諦めず、やり残した琉球処分の完遂を目指し、奄美以南の軍事基地化を急いでいる。

今、そのような愚かな時代だからこそ、我々は立場を超えて個に帰り、大破局後の世直しに備えるべきであろう。この際、ヤマトに対する乞食根性を止め、全てのウチナーンチュは大局において団結すべきなのである。子や孫に恥ずかしい思いをさせないため、ウチナーの誇りのために。

そもそもウチナーは、古代世直しの時代に、倭及奴と呼ばれた常世の国。それは、倭国でありながら、及び奴国であるとの意味である。そのウチナーの立ち位置は今も変わらない。日本でありながら、より沖縄であるとの思いが強い。我々の思いを守護してきたのが、海神であるジュゴン、DUGONG。ドゥーグン。龍宮、竜宮である。辺野古の龍宮神をないがしろにすると、誰であれ、祟りの災いから免れない。

（2017年2月9日琉球新報論壇掲載）

海勢頭豊（うみせど　ゆたか：SDCC共同代表）

わんさか通信★ジュゴンのわ

さくらさく

三月は高校入試の月。

高校が島にない離島の子供は親元を離れ高校へ進学します。

離島でも県立高校が４校ある宮古島には独特な入学試験の日の風習があります。それは受験生の両親や保護者、おじい、おばぁが手作り弁当を持って校庭でスタンバイ、午前中の試験を終えた子供は校庭で昼食を共にとり、また午後の試験に臨むわけです。なんと心強いこと！

その日のメニューは「いっぱい○丸がもらえるように」とおにぎりも丸型、海苔巻の丸、おかずも丸型にしてと丸尽くしの愛情たっぷり弁当。ほほえましい光景です。

今度は合格発表当日、親族知人、ご近所さんがお祝いにとお宅訪問、ひっきりなしにやってきます。

親はおもてなしの準備で大忙し、オードブルの予約も欠かせません。

床の間には「合格おめでとう」横断幕も。泡盛もススムわけです。

小学校入学時も同じようなお宅訪問形式祝いの風習があります。誰々さん家の子が何年生かを把握し、よし行こう！というわけです。　（沖縄・小平）

（写真は琉球新報より）

INFORMATION

＜首都圏＞　《　今後のスケジュール　》

・4/8！辺野古への新基地建設強行を許さない！首都圏集会
　18 時半～　文京区民センター
・辺野古の海の埋立て工事強行を許さない！4.19 大集会
　18 時半～　19:45 デモ出発　日比谷野外音楽堂
・4/21（金）**第 17 回 SDCC 総会**　大井町きゅりあん
18 時半～　沖縄から海勢頭豊代表、吉川秀樹国際担当が参加
・4/21（金）**防衛省・環境省・外務省交渉**　（予定）
・4/22（土）-23（日）　**アースデイ東京**　@代々木公園

＜関西＞

・4/13（木）おきなわ茶会　モモの家　阪急・JR 吹田
　19 時～　6 面に掲載した 春の沖縄旅の報告をします
・4/15（土）**じゅごんでトレイン！**
　環状線に乗り込み、着ぐるみジュゴンで楽しくアピールします
　14 時 JR・京阪 京橋駅前集合
・4/15（土）　沖縄のネーネーの話を聞く集い　資料代 300 円
　18 時開場　18 時半～　北区民センター
・4/27　じゅごん茶話会　14 時～　京橋事務所

牧志治さんの写真展とトークショー

辺野古・大浦湾をフィールドに活躍されている写真家牧志治さんの写真展とトークショーを開催します。牧志さんは昨年 12 月安部に墜落したオスプレイの水中写真を撮影されました。

東京　第２０回夢あーるまつり　池上会館　東急池上駅下車
　5/13（土）15 時～20 時　**トークショー**　18 時～20 時
　5/14（日）11 時～16 時　**トークショー**１３時～15 時

大阪　＊レンタルスペースチャクラ　天神橋筋商店街（天三）
　5/20（土）11 時～19 時　5/21（日）11 時～18 時
　＊5/22（月）-6/18（日）マガタマ café&dining
　　JR・地下鉄玉造駅すぐ　11 時～21 時
＊マガタマでのトークショー　6/4（日）16 時～18 時
参加費　予約 1500 円/当日 1800 円（1 プレート 1 ドリンク付き）

じゅごんの里ツアー（辺野古スタディツアー）

6/30（金）～7/2（日）辺野古や沖縄の基地の現状を知り、地元の方々と交流、やんばるの森や海の自然を満喫、沖縄料理も楽しみます。辺野古の海のすばらしさを体感してください。
参加費　３３０００円（予定） 宿泊２泊・船・レンタカー・ガイド料・食事代（飛行機代は含まれません）
詳細は下記事務所までお問い合わせください。

総会方針・決算案（概略）

安倍内閣は辺野古・大浦湾の埋め立て工事の準備に着手する一方、オスプレイ訓練場を設置した「やんばるの森」を 2018 年世界自然遺産に推薦しました。来年度は 18 年 1 月に名護市長選挙があるなど、辺野古新基地建設阻止の正念場の一年になります。国際自然保護連合（IUCN）が世界自然遺産の現地調査に今年の夏に来日します。新署名を大きく広げることで世論を高め、6 月 10 日（土）国会包囲行動を現地の闘いと連携して成功させたいと思います。

決算案は、パタゴニア助成金 639532 円（IUCN 報告事業、今年 9 月まで）を年末に受けて、
収入 3943335 円―支出 2652534 円＝1290801 円となりました。収入・支出に IUCN 会議（ハワイ）での宿泊料を含んでいます。昨年の総会で毎年 25 万円の積立金（IUCN 経費、リフレット・一筆箋の発行）を決めました。繰越金は 104 万 801 円となります。前年度の繰越金約 64 万、助成金約 64 万円があり、単年度では厳しい会計になりました。来年 1 月に名護市長選挙があるので、交通費、宿泊費を増やします。

普天間居場所づくりプロジェクト

軍事基地の街から「平和」と「人権」の街普天間として発信。子ども達を中心に誰もが安心して気軽に集える居場所『そいそいハウス』を立ち上げ、普天間基地周辺をめぐる平和と人権を学ぶツアー『リベラルツーリズム・命（ぬち）どぅ宝ツアー』を開催されています。
ツアーは約２時間で 1000 円。ひとりでも申し込めます。
申し込み、問い合わせは、普天間居場所プロジェクト　赤嶺和伸さんまで
沖縄県宜野湾市新城 1-6-2　TEL&FAX 098-893-5723

サポーター募集中　年会費１口 3000 円
ゆうちょ銀行　（当座）01750-0-145563
口座名　普天間居場所づくりプロジェクト

じゅごんの里ツアーでもリベラルツーリズムを体験します！

Editor's Note

毎年３月に、名護市東海岸で開催される「フラワーフェスティバル」。個人のお庭も解放されて地域密着のイベントとして定着しています。５回目の今年のチラシは、花とジュゴンのコラボ。ジュゴンが地域の顔になっているのがうれしい！ところが海に目を向けるとフロートが張り巡らされ作業船の姿も。それが目に入ると気持ちが落ち込むという住民の方も増えているとか。一刻も早い工事の中止をと思わずにはいられません。　（山根）

ジュゴンちゃんぷるニュース　VOL.91　2017 年 3 月 21 日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター　Save the Dugong Campaign Center（SDCC）
〒162-0815　東京都新宿区筑土八幡町２－２１
第１千代田ビル３０１　なかま共同事務所内　TEL/FAX　03-5228-1377
○ http://www.sdcc.jp/　○ info@sdcc.jp
（関西連絡先）　〒534-0025　大阪市都島区片町 2 丁目 9 番 21 号野口ビル 302
TEL/FAX　06-6353-0514

会費(2000 円)＆カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名　ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号　00140－9－660199
他行、コンビニからは:　ゆうちょ銀行　〇〇八支店
口座番号　普通　8159084

＊前号ちゃんぷるニュース１面で、翁長知事のお名前を翁長健志としていましたが、正しくは翁長雄志でした。お詫びして訂正いたします。